

順天堂大学

学長 代田 浩之 殿

順天堂大学 外部評価委員会

2024 年度 順天堂大学外部評価委員会 評価報告書

1. 外部評価委員会評価報告書の目的

順天堂大学は、『内部質保証に関する方針』、『順天堂大学内部質保証に関する規程』及び『順天堂大学自己点検・評価に関する規程』に基づき、内部質保証の推進に必要な自己点検・評価を、毎年度、全学的に実施している。

2024 年度外部評価委員会は、順天堂大学学長から、2023 年度を対象とした自己点検・評価項目のうち、後述する 4 つのテーマについて、評価依頼を受けた。本委員会は、『順天堂大学外部評価委員会規程』に基づき、これら 4 つのテーマに係る自己点検・評価の客観性及び妥当性並びに内部質保証の有効性に関する評価を行ったので、その評価結果を以下のとおり取りまとめた。

2. 評価対象・評価方法

評価対象は、以下の 4 つのテーマであり、順天堂大学から提出された『2024(令和 6)年度 順天堂大学 外部評価委員会 評価依頼事項』及びその根拠資料並びに委員会当日(令和 6 年 9 月 6 日)の質疑応答に基づいて、客観性・妥当性・有効性の観点から評価を行った。

＜評価依頼のあったテーマ＞

- 1) 内部質保証の方針と手続きに基づき、教育における内部質保証システムは有効に機能しているか
- 2) 学位授与方針に明示した学生の学修成果を適切に把握及び評価しているか
- 3) 本学の入試の適切性について検証を行えているか
- 4) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの実施体制は適切に整備され、機能しているか。

3. 各テーマに対する評価

1) 内部質保証の方針と手続きに基づき、教育における内部質保証システムは有効に機能しているか

<概評>

内部質保証のための全学的な方針、体制及び手続きは整備されている。内部質保証の推進に必要な自己点検・評価は、毎年度、自己点検・評価運営委員会及び同部門委員会において実施されている。その結果に基づき、内部質保証推進委員会では、大学運営全般における課題の改善や更なる教育の質向上への取り組みが行われている。自己点検・評価活動により特定された問題点・改善事項への対応状況、成績評価の確認及び成績に対する異議申し立て状況、学修成果の把握・可視化への対応（アセスメント・プランの改正、カリキュラムマップ・ツリーの整備、DPの学修目標と評価指標の図示化、GPAの活用促進）、情報戦略・IR推進室が担当する授業評価アンケート及び最終学年アンケートの実施等について確認した。

また、学外者からなる外部評価委員会を開催し、自己点検・評価及び内部質保証の取り組みについて、客観性・妥当性・有効性の観点から評価を受けている。2023年度の提言（3件）に対しては、適切に対応している。

内部質保証システム自体の適切性の点検・評価については、大学の教育・研究に関する最上位の審議機関である学長主宰の大学協議会がその役割を担っている。同協議会では、内部質保証推進委員会及び外部評価委員会の審議内容並びに各部門の対応状況の報告を受けて、内部質保証システムが適切であることを確認している。

以上のことから、教育における内部質保証システムは有効に機能していると言える。

<提言>

- ・教育における質保証の機能の向上に資するよう、学生アンケートの回答率の更なる引き上げに向けた取り組みが望まれる。

2) 学位授与方針に明示した学生の学修成果を適切に把握及び評価しているか

<概評>

学士課程、大学院ともに、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を評価する指標として、「アセスメント・プラン」を定めている。

学士課程においては、シラバスに各授業科目とディプロマ・ポリシーに示した資質・能力、より具体化したコンピテンシーとの関連を明示している。学修成果の把握・評価は、授業科目毎の成績評価を基本とし、次に示す指標も複数組み合わせで行われている。①コンピテンシーの達成度評価、②GPA、③直接評価できる成績(CBT, OSCE等)、④技術経験に関する評価、⑤ルーブリック、⑥ポートフォリオ、⑦卒業試験・卒業論文、⑧語学検定(TOEFL)のスコア、⑨各種アンケート調査である。各学部におけるコンピテンシー達成レベル表の活用の広がりや、アセスメント・プランにおける評価指標の拡充など、学修成果の把握・評価に向けた取り組みが着実に進められており、ディプロマ・ポリシーに示した知識・技能・態度の修得状況について、多様な方法・指標により把握・測定することを試みていると評価できる。なお、態度の評価に

関しては、形成的評価の視点と学生へのフィードバックを意識して、更なる評価の充実が図られることを期待する。

大学院における学修成果の把握・評価は、授業科目毎の成績評価を基本とし、論文発表に到るまでの各過程でも把握・評価している。研究計画書・研究指導計画書、研究指導状況報告書、中間報告会、ポスターセッション、学位論文審査を通して、身につけるべき資質・能力の達成度を評価している。また、専門知識や技能だけでなく、キャリアに必要な資質・能力（汎用的能力）の修得に関する評価も重要であり、評価指標の更なる整備と評価の実践について検討を重ねて頂きたい。

大学では、より実践的なアセスメント・プランの策定と学修成果の評価への活用、教学 IR の実質化やデータ利活用の更なる促進を課題として認識している。今後の自己点検・評価の中で、対応状況を説明するようにして頂きたい。

<提言>

- ・アセスメント・プランにおける評価の対象を明確にし、評価指標との関係を整理することが望まれる。
- ・ディプロマ・ポリシーに示した知識・技能・態度のうち態度に関する評価について、効果的な評価手法を検討し、学修成果の把握・評価が更に充実することが望まれる。

3) 本学の入試の適切性について検証を行っているか

<概評>

大学全体には全学入試委員会・大学院入試委員会、各学部・研究科には入試委員会、入学者選抜委員会、入試検証委員会を設置しており、各委員会が有機的に機能し、入試の適切性が確保される体制となっている。

各学部・研究科では、入試検証委員会において、公正性・適切性についての具体的判断基準が示された「検証事項チェックリスト」によって検証が行われている。その検証結果を踏まえて、入試委員会において今後の対策等が検討されている。入試検証委員会の役割は重要であり、同委員会は有効に機能しているものと考えられるので、継続的な検証をお願いしたい。

大学では、各学部・研究科の検証結果を踏まえて、全学入試委員会・大学院入試委員会において、全学的な立場から、学生募集、出願手続き、個別学力試験、小論文・面接、合否判定、合格発表等の各段階において、公正を確保し適切に行われたことを検証している。内部質保証推進委員会においても、自己点検・評価報告書の内容に基づき、全学的視点での検証が行われている。

また、入学者選抜に関して、合否判定で使用する選考資料には受験者の属性情報（氏名、性別、出身高等学校等）を記載せず、受験者の成績から合否判定基準に従って合否判定を行っていること、親族に受験者がいる教職員は入試運営に関与させないことなど、透明性を確保し、公正かつ適切な選考に努めていることを確認した。

以上のことから、各学部・研究科レベル、大学レベルで、それぞれ入試の適切性について検証を行っているものと評価できる。それぞれの検証結果と分析等を、今後の取り組みに効果的に活かしていくことを期待したい。

4)数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの実施体制は適切に整備され、機能しているか。

<概評>

令和4年4月に設置された「数理・データ科学教育研究センター」が中心となり、政府のAI戦略2019で標榜された『数理・データサイエンス・AI教育』の全学的な普及に取り組んでいる。

同教育の中核となる『順天堂大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム』（J-MDASH）の企画・運営は同センターが担い、プログラムの運用に関する実務的事項を審議する「数理科学教育管理委員会」、プログラムの運用状況を点検する「数理科学教育点検・評価委員会」と相互に連携し、全学の数理・データサイエンス・AI教育の質を確保するための取り組みを行っている。

上記の体制では、①同センターは各学部プログラムの履修状況や学生・教員に対する授業アンケート結果を集約・分析し、点検・評価委員会に報告する、②点検・評価委員会は、文部科学省が推奨する点検・評価項目に沿ってプログラムを検証し、課題等を管理委員会にフィードバックする、③管理委員会は指摘事項に対する改善策を検討し、次年度プログラムの実施に反映する、という仕組みが確立しており、各委員会の定期的な開催を通じてPDCAが確保されている。

令和5年度プログラムでは、前年度の検証結果を踏まえ、プログラムの紹介動画の公開や修了証・オープンバッジの発行を実施している。学生の履修意欲の向上や学修成果の可視化に資する取り組みであり、上記のプロセスによりプログラムの運用の改善が図られていることを確認した。

以上のことから、全学的な数理・データサイエンス・AI教育の実施体制が適切に整備され、本プログラムの実施・検証・評価・改善というサイクルが有効に機能していると評価できる。

4. まとめ

2024 年度外部評価委員会は、2023 年度を対象とした自己点検・評価をもとに、上記 4 つのテーマについて、評価を行った。それぞれのテーマにおいて、順天堂大学の対応は適切・妥当であったと評価できる。大学には、教育研究等の状況について、自ら点検・評価を行い、その評価結果をもとに、質の向上を図り、適切な水準にあることを自らの責任で説明し証明していくことが求められている。順天堂大学では、毎年度、全学的な自己点検・評価が実施され、その結果をもとに改善活動を行う仕組みが構築されていることから、この仕組みをしっかりと機能させ、継続的に教育研究活動等の更なる改善・向上に取り組んで頂きたい。内部質保証の推進に責任を負う内部質保証推進委員会が主導する教育の質向上の取り組みにも期待したい。また、第三者の視点で行う外部評価委員会の評価についても、順天堂大学の取り組みの妥当性・適切性を客観的に評価し透明性を確保していくための重要なプロセスの一つであることから、定期的かつ継続的に実施していくべきであると考え。当委員会からの提言に対しては、学長の指示のもと、内部質保証推進委員会を中心に検討し、適切に対応している。今後とも、順天堂大学が、社会情勢の変化を踏まえて自らの責任でその質を保証する高度な教育研究活動を通じて、社会の信頼に応えとともに、国際レベルでの社会貢献と人材育成に邁進することを期待する。

以 上

2024 年度 順天堂大学外部評価委員会 委員

所属	役職	氏名
学校法人長聖	理事長	○ イチカワドイル 徳恵
東海大学体育学部	特任教授	勝田 隆
丸善雄松堂(株)	支社長	井上 賢一
筑波大学医学医療系地域医療教育学	教授	前野 哲博

※委員長：○印